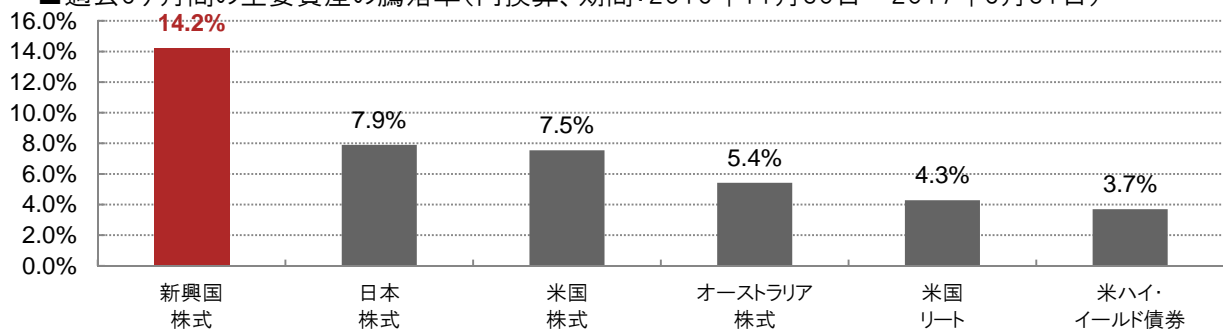


好調な新興国株式

過去6カ月間で上昇している資産は？

世界経済は先進国、新興国ともに堅調に推移しています。ここで過去6カ月間の主要資産の騰落率を確認してみましょう。**新興国株式の騰落率は14.2%と、他の主要資産と比較しても大きく上昇しました。**

■ 過去6ヶ月間の主要資産の騰落率(円換算、期間:2016年11月30日～2017年5月31日)



※新興国株式:MSCI新興国株価指数、米国株式:S&P500種指数、日本株式:TOPIX、米国ハイ・イールド債券:バンクオブアメリカ・メリルリンチ米国ハイ・イールド・マスターII・コンストレインド指数、オーストラリア株式:S&P/ASX200指数、米国リート:FTSE/NAREITオール・エクイティ・リート指数 ※すべてトータル・リターン 出所:トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

企業業績も堅調

新興国経済は、外需の改善や緩和的な金融政策、堅調な個人消費などを背景に底堅く推移しています。新興国企業の業績も堅調で、ピクテグループの見通しでは**2017年の予想増益率は+20.0%と、世界全体の+14.4%を上回る見通し**です。業績面でも株価を支える材料が揃っています。

割安な新興国株式

過去6ヶ月大きく上昇している新興国株式ですが、バリュエーション(投資価値評価)は、まだまだ魅力的な水準です。新興国株式の**株価収益率(PER)は12倍と、米国株式の18倍に比べて割安な水準**です。ここから株式に投資するならば、より魅力的な新興国が良いかもしれませんね。

■ 主要国株式の株価収益率(PER)比較(2017年5月31日末現在)

	米国株式	オーストラリア株式	日本株式	新興国株式
PER	18倍	15倍	14倍	12倍

※米国株式:S&P500種指数、オーストラリア株式:S&P/ASX200、日本株式:TOPIX、新興国株式:MSCI新興国株価指数

※PER(株価収益率)は、12ヵ月先予想1株あたり利益(EPS)ベース。予想はI/B/E/S集計アナリスト予想

出所:トムソン・ロイター・データストリーム、I/B/E/Sのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。